

ニッポー 自動灌水コントローラー



灌水NAV Iは水や肥料の管理を自動化できる装置。日射量を測定し、灌水を行う。最大8系統の灌水を管理できる。さらに1日に指定した回数だけ灌水に液肥を混ぜて作物に肥料を与えられる。

ニッポー（埼玉県川口市、若槻憲一社長、048・2533・2788）は、「アイファーム・クラウド」に対応した背景は人手不足のほか、外部からハウスの管理したいと農家からの要望があった。クラウド対応で時間や場所を問わず管理できるようになり、農家の不安解消にもつながった。若槻社長は「1年間で200以上の販売を目指す」と意気込む。

灌水回数 2回	日射量 0 W/m2
灌水用積算日射量 6.08 MJ/m2	積算日射しきい値 6.40 MJ/m2
日積算日射 17.29 MJ/m2	温度 30.2℃
相対湿度 100%RH	飽差 0.1 g/m3



スマホなどで灌水回数や日射量、灌水用積算日射量を確かめられる。オプションの温度湿度センサーを追加すると、温度なども把握できる。同サービスはCSVファイルを取り込めるため、他社の

スマートフォンなどでハウスの状況を確認できる
(ニッポー提供)

ハウス栽培 クラウド管理

環境測定機器で集めたデータとの比較も可能だ。

同社は2018年12月、先行して統合環境制御盤をクラウド対応していた。新たに灌水NAV Iのクラウド対応で「農家にとってクラウドを導入するハードルを下げられた」（若槻社長）とみる。同制御盤と比べて導入にかかるコストを4分の1程度に抑えられる。

クラウド利用には灌水NAV Iの本体とゲートウェイボックスの設置と利用プランの選択が必要。同ボックスの価格は12万8000円（消費税抜き）。プランは「環境モニタリング」「他社測定器データ比較」を用意。月額1200円（同）の利用料が別途かかる。

9月時点で約1200の農家が同サービスを利用。灌水NAV Iは自動散水などを行えるため、遠隔操作の機能はないが「顧客から要望があれば応じたい」（若槻社長）としている。

(右)いたま・阿部末沙子